

三月定例会ではこんな事が決まりました

三月一日に桑山市長が退職、二日から宮地新市長就任

二月二十一日に行われた津山市長選挙の結果、新人の宮地昭範氏が当選しました。

その結果を受けて、三月一日に開会された市議会本会議で、桑山市長からの「市長の退職の申し出」(任期は三月十八日まで)を受け、市議会が同意して退職となり、翌二日から宮地昭範氏が新市長になりました。

二日の本会議に臨んだ宮地氏は、左記のような挨拶を行いました。

宮地市長の就任挨拶

私は、本日市長に就任いたしました。市政運営の重責を改めて痛感し、身の引き締まる思いで初登庁をいたしました。今日、ここに本会議への初めての出席に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。



私は、心の通う信頼と責任の市政を市民、皆様に訴えてまいりました。市役所へ勤めた大半が市民に直接触れ合う職場でありました

ので、市民目線の大切さを実感し、心が通い信頼し合える市政を実現するといふ至極当たり前の考え方を申し上げ、ご支持をいただいたものと思っております。私は、市長はもっともっと身近な存在であるべきだと考えており、形式や建前ではなく、許される限りさくばらんな触れ合いを大切にしていきたいと思っております。市民の皆様から多くの期待や要望もありますが、今の財政状況から必ずしも要望に応え切れない状況も想像されますけれども、正直な気持ちで、そして自らの姿勢を示したうえで、市民の皆様には説明をし、本音で対話をしていくつもりでございます。

市議会の議員の皆様とお互いに建設的な議論をし、着実に前へ進んでまいりたいと思っております。議員各位のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。次第でございます。

市長の退職金を半額にする条例改正案を提出

三月一日の本会議で桑山前市長の「任期途中の退職」に伴い、「市長の退職金を半額にする」ことを求める「議案会」が左記のように提案されました。

津山市議会議長 森下寛明殿

提出者 末永弘之

賛成者 ↓ 秋山幸則、久永良一、森岡和雄

(提案理由の概要)

市長選挙において、市長の「退職手当について」が一つの争点となり、「現在の一期四年で約二千四百万円は高すぎるので半減する」と主張した候補者が当選しました。このことは、市民の判断として、現行の退職手当規定の変更を求められていると判断できます。

また、現職市長(桑山博之市長)は、一期四年で交代するものであり、現職市長から適用するように条例を変更して現状の半額にするのが妥当な措置と考え、条例改正の議案を提出します。

◎津山市特別職の職員等の退職手当に関する条例、第三条中「百分の五十三」を「百分の二十六・五」に改める。
この条例は、平成二十二年三月一日から施行する。

退職金を半額にする条例提案に対する反対討論(要旨)

津山誠心会議 中島 完 一

いかに、新市長が退職金を半額にするという選挙公約を掲げて当選されたとはいえ、任期の終わる現職市長の退職金までも半額にするという条例改正案を提出するという行為自体、いわば倒した相手の頭を足で踏みつけるような行為と言わざるを得ません。

新市長は、今後、自らの意思で退職金の減額条例改正案を提出されることでありましようが、それは新市長自らの意思です。今回のこのような津山市特別職の職員等の退職手当に関する条例の一部を改正する条例案には反対し、より良い政策議論が行われることを期待し、反対討論といたします。

★この議案は、賛成者が「少数」で否決されました。